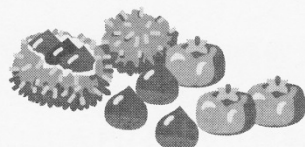


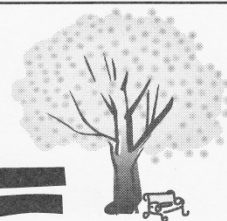
“おもしろくて ためになる 学びの共有”^{わかちあい}

秋田県教育カウンセラー協会機関誌

教育カウンセラー



あきた



12号

2006年（平成18年）10月7日発行

地域社会とともに進もう

秋田県教育カウンセラー協会

代表 水戸谷貞夫

学校教育をめぐる多くの問題が指摘されている。例えば、校外における学習や登下校の安全・安心が大きい問題とされ、地域の方々が保護者とともに努力しておられるなどがある。そのため、教育委員会をはじめとする関係機関からの呼びかけによる様々な試みがなされている。さらに効果を上げるためには、地域社会との連携・協力が強く進められるように望まれている。

これに関連して、ある調査（注1）の結果をみると次のようであった。子どもたちの休日の居場所では、「自分の家」が62.0%、「友だちの家」が28.3%、「公園、原っぱ、空き地」が27.5%、「海、山、川などの自然」が7.6%であり、屋内が中心になっていた。

「子どもが健やかに育まれるために地域で力を入れるべきこと」については、「地域内での子どもの安全の確保に活動する」が第1

位で66.9%、次が「異なる考えを持った人たちや年齢の人たちとの交流」で36.3%、「地域の歴史や文化、自然を体験したり学ぶ機会を増やす」が33.5%、「文化やスポーツなど、子どもの個性を伸ばす教育を強化する」が31.9%、「子どもに礼儀やしつけをしっかり教える」が30.7%であった。

秋田県教育委員会の平成18年度の教育主要施策（注2）では、「地域に開かれ信頼される学校づくりを進めます」として、地域の教育力を活用したハロースクール運動、子どもたちや教職員が地域に貢献するホットエリア運動などを挙げている。「ふるさと学習」や「みんなの登校日」については、地域社会とともに進もうとする意識がみられると評価がある。私たちが未来を託す子どもたちが、様々な体験を積み、たくましい大人として自立できるようにするためには、地域の安全を確保しながら、いろいろな機会を創出していく必要があると考えている。

（注1）「地域の教育力に関する実態調査」

（小学生、中学生、保護者対象。平成18年2月）

（注2）「学校教育の指針」

（秋田県教育委員会。平成18年度）

「教育カウンセリング・コース別研修会」から

～平成18年7月1日(土)～

於 千秋会館

Aコース「個人面談スキル」

(講師：浅沼和一先生)

Bコース「学級で行うソーシャル・スキル・トレーニング指導の実際」

(講師：佐藤さゆ里先生)

研修会レポート

協和病院心理判定員 浅沼 知一

去る7月1日、2006教育カウンセリング研修会が開催されましたので、その様子についてご紹介致します。

当日はテーマ別に2コースに分かれ、Aコース「個別面接スキル」には22名、Bコース「学級で行うソーシャル・スキル・トレーニング指導の実際」には14名の参加がありました。

私自身はAコースを担当させて頂きました。ロールプレイ(演習)の多い内容でしたので、「参加者が気後れや抵抗を感じないか」懸念されたのですが、開始直後から熱心な取り組みがみられ、予定通りにプログラムを消化することができました。

このコースでは、個別面接での技術向上を目指し、特に非言語面での工夫について検討しました。具体的には、カウンセラー役とクライアント役の座り位置や姿勢、動作、声の調子など、個々の要素が対人コミュニケーションに及ぼす効果・影響を、ロールプレイの中で互いに確認する、というものです。

ほとんどの参加者が過去にカウンセリングに関する研修を受講していたようで、終了後の懇親会の席では「初めて聞いた内容はなかったが、良い復習の機会になった」「自分自身の理解を再確認できた」「一度習得したスキルを錆び付かせないように、時々ブラッシュアップする必要性を感じた」といった感想が話されました。

今後も、このような基礎的事項の反復練習が出来る研修会を企画し、自分自身も受講したいと考えております。

参加者の感想から

※秋田県教育カウンセラー協会 HP より抜粋※

【Aコースについて】

- ❖ 具体的な面接の技法を演習を入れながら教えていただき、勉強になりました。特に、「質問をしない会話」や「ロパクで相手の感情を読む」ものは、言葉以外のコミュニケーションの要素を体験でき、興味深かったです。
- ❖ 大変参考になるお話で、満足しました。先生の人柄が表れた楽しい時間でした。普段、何気ない行動でも他人に与える影響があんなにも変わることが分かり、これから考えながら行動しようと思いました。
- ❖ 基本的な態度を、普段の自分を振り返りながら学ぶことができました。自分の癖を見つけた気がします。たくさんのヒントを活用させていただきたいと思います。

【Bコースについて】

- ❖ ソーシャルスキルは、「まず自分自身から」と、改めて感じました。私自身が日常の中で自然に「ふわふわ」な言動をしていけるようになりたいなあと思います。子どもたちにも、段階的にトレーニングしていきたいと思います。
- ❖ 学校現場で大切にしたい内容の研修でした。このような視点でのトレーニングは何回でもした方がよいものと思います。
- ❖ 実際の演習を通して、学ぶことができ、大変参考になりました。明日から実際に使えそうだと思いました。

「秋田Q-U学習会サマー1日研修会」の感想から

～平成18年8月19日(土)於 遊学会～

【学級経営コンサルテーション～「Q-U」「K-13法」を用いた事例研究(小学2年)】

・K-13法。初めて体験しました。非常に有効な手段だと感じました。ぜひ学校でも研修会をもち進めていきたいと実感しました。

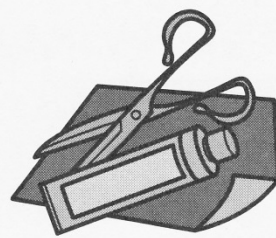
・やはり担任の先生がその場にいると、事例検討がより具体的になるような気がしました。リーダーに上手にまとめて頂いて、具体的な対応策をいろいろ考えられました。多種多様な考えやリソースを出し合えるのがQ-Uの良さだと思いました。

【カウンセリング講義・演習】「コラージュ療法」《講師：荒川由美子先生(尚絅学院大学教授)》

・初めてコラージュを作成しました。絵を描くのは苦手なので、抵抗がかなり軽減し、楽しく取り組みました。

・無意識に心の赴くままに楽しんで作成している自分に出会いました。このコラージュは、私と生徒を橋渡ししてくれるツールになるような気がしています。先生の講義から沢山のお土産を持ち帰ることができました。

・サンプル作品を見せていただきながら、具体的に解説いただき、人が変わっていく様子、内面の変化が表出するコラージュは興味深いものだと感じました。楽しい作品を作ってくれた参加者の皆さんにも感謝します。



図書紹介コーナー

2006年教育カウンセラー養成講座(秋田会場)の講師の先生方の著書を中心に紹介します。



- | | | | |
|---|--------------|----------|---------|
| ①「図でわかる発達心理学」 | 新井邦二郎著 | 福村出版 | 2,200円 |
| 子どもの発達の姿を直観的に理解するために、図表・イラスト満載。見やすくわかりやすい発達心理学の入門書(「BOOK」データベースより)。 | | | |
| ②「学級づくりのためのQ-U入門」 | 河村茂雄著 | 図書文化 | 1,260円 |
| 「Q-U実践講座CD-ROM」 | 河村茂雄監修 | 図書文化 | 4,200円 |
| 「学級タイプ別繰り返し学習のアイデア」 | | | |
| 漢字・計算・英単語練習が10倍楽しくなる授業スキル 小・中学校編 | | | |
| | 河村茂雄・上條春夫編 | 図書文化 | 各2,100円 |
| 「学級担任の特別支援教育」 | | | |
| | 河村茂雄編著 | 図書文化 | 2,310円 |
| ③「ストレス一日決算主義」 | 山本晴義著 | 日本放送出版協会 | 640円 |
| ④「授業デザインの最前線ー理論と実践をつなぐ知のコラボレーション」 | | | |
| | 高垣マユミ編(河野義章) | 北大路書房 | 2,500円 |

☆カウンセリングトピックス☆

「 連 携 」

- ・ 学校や相談の現場では「連携」という言葉を耳にする機会は大変多いものです。教育カウンセラーとしての力を発揮するうえでも今一度、連携の意味を確認してみましよう。
- ・ 三木（2003）は「心身の健康問題解決のための『連携』とは、問題解決の目的を共有し、そのために適切な連携対象と相互に連絡および協力体制を図りながらともに取り組むことである」といいます。また、連携のための条件として次のものをあげています。

<連携のための4つの条件>

- ① 自分の担うべき役割を果たすうえでの連携であること、自分の役割の限界も判断できること。
- ② 連携する対象の概要および特質を確実に掌握しておくこと
- ③ 連携する適切なタイミングを見きわめ、適時を逸しないこと。
- ④ 日常から連携の基礎づくりをすること。

（「連携の基本」三木とみ子（「非社会的な問題行動—無言で支援を求める子ども」，2003 図書文化））

- ・ 問題を一人で抱え込んでしまっただけでは、せつかくの専門家としての力も発揮しにくくなり、もったいないですね。教育カウンセラーという専門家として何ができるのか、今現在の自分はどれぐらいのことができるのか、何ができないのかを知っておくことはとても大事なことです。私たちは専門家であり、責任を伴う立場なのです。
- ・ ヒューマンネットワークづくりをしておくことは、連携の適切なタイミングを逃さないこと、つながる先を見極める力につながります。教育カウンセラーも様々な得意分野を持っています。多くの専門家とつながっていることも、連携をする専門家にとって大切な力です。
- ・ 連携とは、「お互いが専門家」としての力が発揮されることが求められているもの。私たちは教育の専門家です。実のある連携を可能にするためにも、ぜひ一緒に学びつづけていきましょう。

<秋田県教育カウンセラー協会理事 佐藤 さゆり>

編・集・後・記

皆さんにとって、この秋はどんな秋になりそうですか？食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、行楽の秋、研究会の秋……。学校現場では、さまざまな行事が行われ忙しいシーズンでもありますね。それぞれの秋を満喫しながら、充実した秋が過ごせますように！（N）